

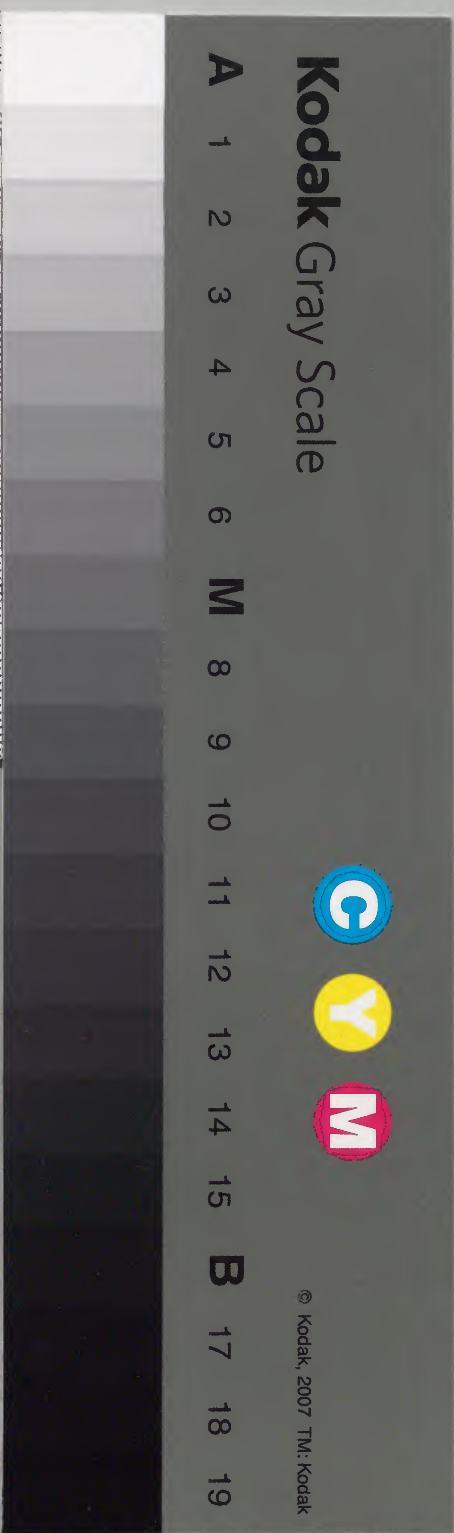
# 國朝大業廣記

百四十  
卷六 大尾

庫文閣内			
三三九一	七	一	和
冊	冊	架	書
號	類		

共七十一

内閣文庫	
番號	和 31291
冊數	71 (71)
函號	149 110





國朝大事表卷之四十五

宣統元年

元月二十日

○胡有  
○胡有

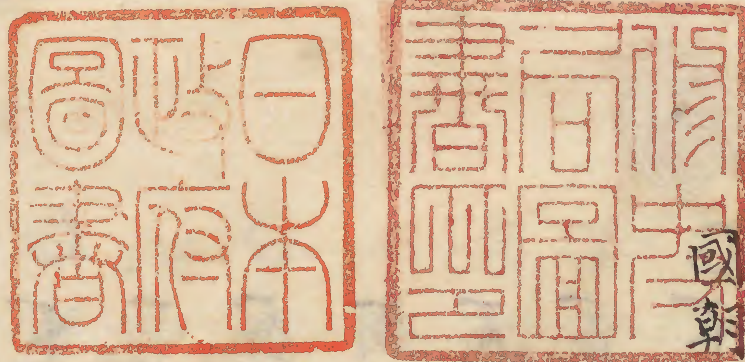
○胡有

○胡有

○胡有

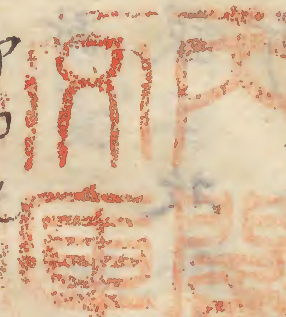
○胡有





國朝大業廣記卷之百四十五

山名氏藏書



御神號 御贈位并日光山神廟創建畧

記

元和三丁巳年

正月大

東武實錄

○朔日 補：列候以下江戸城、登于台徳公

拜謁 新正ノ嘉儀ヲ祝ス

同上

○十日 補：年始ノ嘉儀トシテ 禁裏ノ進献ノ品



○左ノ如  
 一禁裏 白銀百枚 蠟燭千挺  
 一院御所 白銀五十枚 蠟燭五百挺  
 一女院御所 白銀五十枚  
 一國母御方 白銀五十枚  
 一白銀廿枚 長橋局  
 一黃金拾兩 廣橋大納言  
 一同断 三條大納言  
 一白銀三枚 秋篠大納言  
 一同断 岩倉左頭

○十四日 <sup>同上</sup> 補 武江天德寺燒亡紫衣 勅許ノ編

○昔 神君ノ御朱印奉尊來迎佛燒失以是ヨリ此

武州川越ノ城主大道寺常若凡三貫文ノ地ヲ天

德寺ニ寄附ス其後元和元年 神君五十石ノ寺

領ヲ天德寺ニ寄附セシメ以テ御朱印ヲ賜ル

○十一日 <sup>同上</sup> 補 花房助兵衛職之卒ニ享年六十九

○廿一日 禁闕ニ於テ陳リ坐ノ節會ヲ行レ

東照大権現ヲ神號ヲ贈リ玉リ 宣下ナリ上卿



日野權納言弘資職事、廣橋頭辨兼賢也

○廿三日同上補大番頭松平筑後守康親初名右亮卒

享享年五十一歲

○是月同上補内藤信廣豐前守信成後五位下叙

市正三任

○是月同上補長谷川縫殿助正高幕府奉仕

御書院番御勤

三月小

○六日同上補寂江駿河守侍從家親卒又享年三十

六歲

○九日勅正一位ヲ贈ラレ

○十五日御遺命依テ大僧正天海之ヲ沙汰シ

駿州久能山ニ葬リ奉ル所ノ靈躰ヲ野州日光山

ニ是ヲ遷シ祭テ為テ寅ノ刻天海及奉多上野介

正純土井大炊頭利勝松平祐平内大夫正細板倉内

膳正重昌秋元但馬守泰朝祭主榊原内記清久騎士

三百雜卒千餘率以能山ニ澄リ大海躬カテ鋤

鋤ヲ取テ其率ヲ下知ス是ハ大職冠録足公ヲ和州

多武峰ニ改葬地誌ニ擬也所也即日ニ靈

柩當山ニ發シ玉ヲ若ク族具ツ尾陽義直御駿陽賴



宣御水戸頼房卿ノ元老成瀬年人正正成安藤帶刀

直次中山備前守信吉此獻山且ツ関東ノ天台宗ノ

碩學等供奉ノ云々

○十六日 靈柩豆州三嶋心著御爰兩日止

也玉

○十七日 大始徳愷紙紅縁山増上寺ノ御霊屋

一御泰詣行リ洋土宗ノ徳蓮社崇譽道和

居士ノ謚号ニ御霊屋ヲ安国殿ト稱シ奉ル

○補東武實録此御泰詣ノ途中於テ大橋長左丞門直

保劇髮ノ後慶ノ新狀ヲ捧ケ撰別大坂ノ役ノ事ヲ

阿部備中守正次ヲ以テ言上シケルハ慶長十九

年大坂兵乱ノ時人皆所桐市正逆心アルヲ由

云ハリ是レ因テ秀頼心ヲ市正ニ隔ル故ニ市正

己中宅地ニ指籠リ弟主膳正及畠山民ヲ毛利兵

吉天野十左丞門西川八右丞門永井助十郎伊東

伊流丸門大橋長左丞門等片桐十好ニ有テ依テ

之ニ共ニ然レ雖モ其後秀頼其疑ヲ散メ市正ヲ

許シ重保ニ其難ヲ免ル神君ノ台徳公大坂御

發向ノ時布正主膳正ノ嚴命ニ依テ備前嶋ノ陣

迄加ル重保示是レ後天聖年大坂再乱ノ後布



正至膳正及畠山毛利天野西川永井伊東亦ヲ召  
 于麾下ニ屬シ奉領ヲ賜ル時ニ重保備前嶋ノ備  
 于於テ割テ蒙テ是ヲ保養スルノ故ニ其列ニ預  
 サルヲ由テ訴テ阿都備中守正次此旨ヲ台徳  
 ニ達シ其後遂ニ重保ヲ召テ麾下ニ屬ヒシム  
 ○廿八日 靈柩相州小田原ニ着御爰ニ一日止  
 七玉ヲ奉御 計其後遂ニ重保ヲ召テ麾下ニ屬ヒシム  
 ○廿七日 靈柩相州中原ニ着御セリ  
 ○廿二日 靈柩武州府中ニ着御爰ニ三日止  
 七玉ヲ奉御 計其後遂ニ重保ヲ召テ麾下ニ屬ヒシム

○廿四日 靈柩武州仙波ニ至ラセ玉フ又兩日止  
 七玉ヲ奉御

○廿五日 補酒井備後守忠利天海僧正ヲ請メ  
 論議法問アリ是日 神君ノ姫君 戎野但馬守 長晟カ室 江

○廿六日 天海自ラ衆僧ヲ請メ法華經ヲ讀誦ス

○廿七日 靈柩武州忍ニ着御アリ

○廿八日 靈柩野州佐野ニ着御此所ハ奉多上  
 野介正純領知タ故大伏生天朝ノ間春日岡寺  
 新假屋ヲ設テ靈柩ヲ入レ奉御











梶井法親王最胤 正覺院權僧正證誠 廣橋大

納言 三條大納言 日野大納言 西園寺中納

言 冷泉中納言 西洞院宰相

○奉幣使 清閑寺宰相 中御門宰相 河野宰相

奉行 廣橋頭辨 烏丸右中辨

被物殿上人

正親町少將 水無瀨少將 北畠少將 藤谷女

將 藤右衛門佐 高倉女將 東坊城 綾小路

侍從 竹内刑部少輔 樋口侍從 平松侍從

六御門左平門佐 廣橋民部少輔 壬生極蔭

○差次藏人 清藏人

堂供養着座

廣橋大納言 三條大納言 日野大納言 四辻

宰相 <sup>奉行</sup> 柳原頭左中辨 <sup>奉行</sup> 竹屋左女辨

○十一日 補 台徳公日光 御登山カリ

○十四日 補 假 御神殿 移ニ奉ル 台徳

公御出座 勅使廣橋權大納言兼勝西三条權大納

言定條并奉行烏丸右中辨光廣 宣命使河野參議

實頭 奉幣使清閑寺參議共房 仙洞使日野權大

納言弘資等群衆ニ 東照大權現ニ崇メ奉ル







○廿日 補。此日ヨリ廿二日。至。法華讀誦一  
 万部衆僧三千五百口法會。時尊師ハ天海僧正  
 ○咒願ハ正覺院権僧正蒙海證誠提升法親王最  
 ○之ヲ勅ハ合徳公御着望アリ廣橋大納言三条  
 大納言着望ハ阿野宰相實頭中御門宰相宣衡清  
 大納言宰相共房諸門跡御相並居登山布施被物録  
 物等甚々多シ其差アリ  
 ○廿一日 補。合徳公日光山ヨリ江都。還御  
 其後是月 大猷公日光山 御廟社造常ノ奉本  
 多上野ハ正純日根野識部吉晴 命ノ奉是

ヲ監ス本多藤四郎正盛山代宮内糟屋新三郎奉  
 行ス然ル所。糟谷ハ造宮殿中。病死ス或夜藤  
 四郎宮内二人相議スハ。奉アツテ日根野カ旅  
 宿。會合メ夜深更ニ及テ歸。欲スル所。  
 藤四郎ハ宮内口論メ藤四郎カ刀ノ鞘ニ之ヲ  
 以テ宮内ヲ打倒ス宮内寄宿。歸テ其夜ノ旨趣  
 ヲ書置テ自殺ス是ヲ聞テ藤四郎モ同ク自殺ス  
 一キハ所。遷。宮。奉行無升テ其期ノ  
 侍遷。宮。畢。後。遂。自殺ス四十一歳  
 正養子實  
 八内藤四郎左平  
 門正成三男也



○補此度日光登山門跡月御雲容江戸、叅  
白谷賜物中リ

白銀千枚 梶井法親王

白銀五百枚 廣橋大納言

白銀五百枚 三茶大納言

白銀貳百枚 日野大納言

白銀貳百枚 西園寺大納言

白銀貳百枚 冷泉中納言

白銀百枚 阿野宰相

白銀百枚 中御門宰相

白銀百枚 西洞院宰相

白銀百枚 清閑寺宰相

白銀百枚 四辻宰相

白銀百枚 廣橋辨

白銀百枚 柳原辨

白銀五十枚 作屋辨

同 葛城辨

同 東城城

同 藤右衛門佐

同 水無瀬中將



○ 白銀五拾枚 元金山 北畠長將

同 御門左衛門位

同 正親町女將

同 竹内刑部女補

同 高倉女將

同 園女將

同 綾小路女將

同 樋口侍從

同 平松侍從

同 藤谷少將

同 廣橋民部女補

同 生極鶉

同 差次藏人

同 清藏人

五月

東武實錄

○ 三日 立花弥七郎種次 後主膳正 正任 始

于 台徳公 謁 直次男

○ 八日 補 同 今度 勅使日光登山 御礼卜大

足女將基宿 兵部少將 禁裏一遣廿ル

○ 九月 補 同 此春最上 駿府家親卒 其子源五







○十三日 東武實録 補

台徳公格平鏡前守利常ノ家

渡御ノ御太刀ノ御刀一文字御脇差平野藤

御暑衣百御袴百御單物百御小袖百八丈嶋三百

端白銀三斗利常賜ル太刀守家刀貞宗脇差

新身藤馬一匹御置小袖百袴百白糸百作紅糸百

作綿千把若物百純綿子黄金三百枚利常之ノ献ノ

猿樂七番上覽ノ三番過小袖唐織猿樂太

夫ノ典ノ其餘ノ役者等ノ小袖ノ典ノ舞臺ノ鳥

目五百貫是ノ積典ノ利常ノ家臣九人 御前

出ノ拜謁ノ時ノ太刀袴ノ献ノ各白銀御單物ノ

賜ル差アリ

○廿日 同上 補 酒井雅樂頭忠世上井大炊頭利勝

安藤對馬守重信等東海道領主ノ輩ニ連名ノ以

觸遣ノ其趣ノ

一 爲ノ今ノ取ノ御次ノ御小儀ノ後ノ奉ノ奉ノ儀ノ口ノ又

馬ノ是ノ八ノ丈ノ之ノ儀ノ宿ノ貨ノ取ノ海ノ老ノ一ノ手ノ也ノ法ノ也

○ 此ノ日ノうノ其ノ福ノ口ノ次ノ旅ノ人ノ月ノ分ノ之ノ節ノをノ燒ノ口ノ

付ノ手ノ其ノ儀ノ大ノ太ノ寸ノ分ノのノ如ノ也ノ就ノ中ノをノ度ノ也

と 作ノ心ノ料ノ是ノ多ノくノ也ノ而ノ中ノ以ノ紙ノ一ノ張ノうノ也

付上流ノ



○十月廿五日

安部野馬

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀

○補給の合徳公御上洛之儀



一 駿馬の中へ乗留るる引のたゞし匠位者所用  
 となす下口志のうぬ者ありてはなほ  
 一 能取言ふ分を仲満りて口行事を立敷申  
 一のり結多し  
 一 河内へ時多しに元上を再言あましく  
 一 法乃身のみ交り通るる  
 一 於河内を三日はたし  
 へつとちる  
 一 小倉結言のたゞし言を通るへ一徳山極め  
 小倉結言のたゞし言へはけしう通る

一 御易能く別於町中笠取申るる  
 一 右に懸お官事ありてはあはれ科納子きぬのあ  
 一 不目付の事書民徳奉行うおはれ科して候とえのど  
 一 等のうに於て身持申子取ぬあはれ  
 一 ちや  
 一 元和三年乙未月廿六日  
 一 海城のり水うちの時多しとあはれ  
 一 富れぬと知れたとひめ  
 一 ちり  
 一 御ありのり



一 海濱中出難心...  
 一 時委之念息不致多死又為後とあり通る子  
 一 望後寸身...  
 一 海濱中...  
 一 之介...  
 一 不可...  
 一 元如...  
 一 是月...  
 一 台徳公...  
 一 六月

○是月同上 補 村上次郎左五門三次 三右五門 言正男 始  
 台徳公 拜謁  
 六月

○是月 東武實録 補 台徳公御上洛  
 ○廿一日 同上 補 福嶋左五門太夫正則参議 任三  
 從三位 叙  
 七月

○朔日 同上 補 内藤若狭守清次卒 享年四十一歳  
 ○三日 同上 補 本多三弥正重卒 享年七十三歳 其  
 子正貫 三弥正重カ養子實心長坂太郎左 家督  
 子正貫 五門重言カ男俊豊後守 任  
 賜  
 ○十八日 同上 補 松平大隅守家父 嶋洋兵庫次 参議  
 任 元左近衛  
 任 権中將



○十九日同上 補義直卿權中納言、任元中將參議 賴

○宣御權中納言、任元中將參議 松平參河守忠直卿中納言

○言未建男參議、任元中將參議 丹羽勘助良信氏次勘助

○男後五位下、叙式部女補、任元立花主膳正

○直次左近將監卒、享年四十六歲

○廿一日同上 補酒井河内守重忠卒、享年六十九

歲其子雅樂以忠世父忠重力家督既橋ノ城邑三

万三千石賜リ政務ノ汰汰ヲ関タリ

○是日同上 補長谷寺ノ制法ヲ下サル

○長谷寺法度

一為學問任山ノ不化不絶不也ハ不レ執法情子

一坊舍并寺録ノ不レ化不絶不也ハ不レ執法情子

一訓化不用能化レ年非法於多ク也ト也ト也ト

○中ノ人ノ也ト也ト也ト

○元和三年七月廿一日

○補同上 山崎甲斐守家治因幡国若櫻ノ城ヲ改メ

備中国成羽ノ城ヲ賜ル建部内匠頭政美ヲ而尼

ヶ崎ヲ改メ播州林田采地一万石賜ル里見母房

○補同上 山崎甲斐守家治因幡国若櫻ノ城ヲ改メ

備中国成羽ノ城ヲ賜ル建部内匠頭政美ヲ而尼

ヶ崎ヲ改メ播州林田采地一万石賜ル里見母房



○ 守忠、義力伯耆國倉石ノ城、関長門守一政、力同國  
黒坂ノ城ヲ没収セ、里見忠義安房國人領ス  
ノ時彼縁者々々、大久保相模守忠隣、居  
石ノ城、食邑四万石ヲ賜ル、母房國ヲ除、伯耆國倉  
石セラレ、ト、別地ヲ賜ル、是、於テ亦倉石ヲ没  
ト、ト、ツラレ、ト、遂ニ果カス、ト、阿陪四郎正之、ト、換使ト  
又組ノ兵力、ト、挂卒ヲ從ヘ、ト、伯州ニ赴キ、ト、里見母房  
守関長門采ヲ没収、ト、所領加藤左近大夫貞恭、ト、龜井  
豊前守政矩、ト、代地ノ事等ヲ沙汰シ、ト、畢テ伏見ニ  
歸ル

○ 朔日 東武實錄 越智長太、支吉友始テ、ト、台徳公ニ謁

○ 八日 同上 補、大村丹後守嘉前卒、享年四十八歳  
○ 廿一日 同上 補、台徳公御代替ノ嘉後ト、ト、朝鮮  
國ノ正使、通政大夫其元謙、副使、通訓大夫朴捧、從  
事官、通訓大夫李景稷、未朝、又入洛、云、大徳寺ヲ以  
テ旅館トス、時、ト、台徳公ハ伏見ニ御在城ナリ

○ 廿六日 同上 補、宗對、萬年義成、朝鮮ノ三使ヲ引テ、  
伏見ノ城ニ登リ、拜礼ス、ト、敵物ナリ、ト、  
○ 同日 同上 補、後陽成院、ト、在位廿五年、諱、國仁、陽成院太  
照洞、ト、崩ス、泉涌寺、ト、葬ル、ト、廿六日、ト、廿六日、ト、



八月廿六日 後陽成院崩御是、去、六月、中

旬、比、日、御、不、豫、人、事、了、是、依、典、葉、寮

云、及、都、鄙、遠、近、各、知、此、醫、師、共、

召、寄、種、葉、術、以、終、療、養、奉、此、雖、使、

御、駭、氣、無、終、小、今日、崩、玉、是、依、

後、水、尾、院、御、疾、祚、有、聞、東、日、御、即位、科、

經、嘗、又、同上 神、君、姫、君、始

晦、日、補、淺、野、但、馬、守、長、晟、少、室、神、君、姫、君、始

嫁、紀、而、若、山、於、逝、去、行、年、廿、九、歲、昌、清、院、中

号、洛、陽、新、黑、谷、葬、為、後、年、藝、州、廣、嶋、昌

清、寺、建、是、昨、廿、九、日、淺、野、但、馬、守、長、晟、少、室

男、子、平、産、之、然、産、後、不、快、遊、去、男、子、成、長

後、松、平、安、藝、才、最、十、号、又、是、十、

九月

五日 東、武、實、錄 補、朝、鮮、三、使、伏、見、城、登、り、歸、国、

暇、賜、賜、物、差、了、宗、對、馬、守、義、成、七、同、暇、

賜、吳、服、白、銀、拜、戴、又

同日 補、是、日、智、積、院、刑、法、下、サ、ル、左、如、

一、為、學、回、任、山、所、他、不、為、廿、年、不、執、法、障、

一、不、他、中、不、能、能、他、年、北、法、後、於、有、



一 新寺中

一 而化中依佐蒙念之事之者棟梁人の逃故

棟梁不知之志上座者人の横也

右記の如手時方也

元永三年九月廿日

○六日 春日社領并奥福寺 社領 賜

春日社領并奥福寺

一 子ありあり中口不部斗能 社領田位社家方

一 千六万五拾五石八斗能 地所田位社家方

一 千四百九十九石部斗 一 寺領

一 九万五拾五石七斗能 大寺院

一 式百八拾石 兵多代家領

一 部百九拾石 院家領

一 七千七百廿石能 法院法坊

一 三千四百七斗五拾石 寺師領

一 千石 寺同領寺師領

一 千七百拾石 修理方寺師領

一 千九拾石 新橋師領

一 三拾石 寺師領

一 三百八拾石 宿傳方



一拾九石九斗

过那監并正家  
部取仕屋交

一拾壹式万石石拾九石六斗

一拾可令社納租為僧形多友配十向本寺不納自

福通也

一拾元和三年九月六

○七日同上補春白社僧制令下廿儿、九

一拾如三

一拾書口所供涉修理本社仍并學同領所師

一拾心部

一拾一石六斗八拾七石八斗

一拾他方寺習并新多地持所尚以是必一年者持寺

一拾中三人宛中留所附了福口本令百姓寺持

一拾本宛寺口沙野所院新坊内本符の七重

一拾沙神供一十月本拾七石七斗定心細法

一拾本日本寺寺月廿八何家立合而取後

一拾一前二破損所修程之り為寺習表多院持所尚

一拾外收入本持本合本後の本宛

一拾一法方本寺位相廻す

一拾一以部定毎年十月廿下出令の本幣

一拾一以而所田所了石石拾石本持寺持



一 領事村の事... 一 流傳之人... 一 取仕之人... 一 大條...

○十二日 <sup>同上</sup> 補二金剛峯寺衆徒中... 下廿九御條目  
 左の如し

高野山寺中法友

- 一 流傳之人... 一 取仕之人... 一 山下... 一 今... 一 是... 一 是... 一 是...







因下流乱所變、斷絶家人等、至ルヲ皆之ヲ  
 不知、以刺鬚、武器、整へ、出興ラ奪ヒ取レ、破  
 支然、此所、越前守、况、醉、倉庫、入、戸、眠、時、  
 家臣坂崎助兵衛、倉庫、引、出、閉、リ、是、ヲ、執、率、告  
 此是、依、兵士、ヲ、メ、出、羽、守、カ、宅、地、ヲ、圍、シ、ム、出  
 羽、守、遂、自、殺、ス、坂、崎、前、領、地、監、使、ト、メ、柳、生、又、丸  
 平、門、小、笠、原、市、左、平、門、助、井、右、京、右、三、人、ヲ、石、加、  
 遣、サ、ル  
 是、月、同上、補、土、岐、頭、行、山城守定義カ男、  
後山城守ニ任ス、始、  
 台、德、公、ヲ、拜、謁、ス

○是月 同上 補、大村民部女侍純頼父丹後守嘉前カ  
 遺領肥前国大村二万七千石餘ヲ賜ル  
 ○是月 同上 補、市橋下総守長勝、越後国三條ノ城  
 米地四万三千石ヲ賜ル 加賜ニ 其子長政 後下總  
守ニ任  
 別、賜、ル

五、石、加、賜、ニ、其、子、長、政、  
 後、下、總、守、ニ、任、  
 別、賜、ル



国朝大業廣記卷之百四十六 大尾

元和三年丁巳年

十月

朔日 補

東武實錄 藤堂和泉守

高流一城洲和州、於

五万石ヲ加賜此井伊掃部頭直孝江州彦根城

三十万石ヲ賜此兩人沖大坂表於軍忠致

又ノ由褒美<sub>ノ</sub>新<sub>ノ</sub>如<sub>ノ</sub>次<sub>ノ</sub>本<sub>ノ</sub>及<sub>ノ</sub>美濃守忠

政勢別業<sub>ノ</sub>改<sub>ノ</sub>播州姫路、於<sub>ノ</sub>拾<sub>ノ</sub>五<sub>ノ</sub>万石

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



賜ノ内五万石、今度加増也。忠政跡、業各  
十一万石、松平隱岐守定勝、賜ノ小笠原右近  
太夫忠政、播州明石、於方七万石、賜ノ本多  
甲斐守政朝、上総大崎喜政、改メ播州姫路ノ内  
五万石ヲ賜フ是、美濃守忠政、拾五万石ノ外  
十一万石ハ、忠政嫡子中務太輔忠刻、五万石次  
男甲斐守、賜フ処ナリ是皆大坂表ノ軍功ヲ感  
セラル、故也。

○五日同上補、亀井豊前守政矩、石州津和野城四  
万三千石、池田備中守長幸、備中国松山城六万

五千石、服坂冷路守安元、豫州大洲城、改メ本  
知、信州飯田城五万六千石ヲ賜フ所替加藤  
左近大夫貞泰、大洲城六万石ヲ賜フ永井右近  
大夫直勝、常呂笠岡城三万石、西尾丹後守足永  
、同國下館城二万石、松平将監重成、参呂西尾  
城二万石、本多縫殿次康俊、江戶膳所城三万石  
、戸田左門氏鏡、棋州尼ヶ崎城五万石、土岐山城  
守定吉、同國高槻城二万石、各賜、或ハ加増或  
ハ本知ニテ所替ヲ命セラル  
○十八日同上補、戸田藤右、永門正次、与五右、永門始



○天八台徳公ヲ拜謁初

十一月

○五日同上河野勝丸平河盛政卒又享年七十五

歳凡同上

○十三日同上補江戶山王ノ社ニ社領百石ヲ寄附

戸所ノ御朱印ヲ賜山王ノ社領百石ノ寄附

山王領氏藏国淺野卿之内百石奉令寄附之礼

全社納永不可有相違之状如件

之如之年十一月十二日

是月先神君天正十九年十一月社領拾石

山王ノ社ニ寄附アリ此後寛永十二年六月十

七日大猷公ヨリ五百石ノ地ヲ以テ山王ノ

社ニ寄附アリ統ヲ社領六百石ナリ

○是月同上補台徳公御放鷹トテ越谷東金

渡御アリ

十二月

○十三日東武實録補立花弥七郎種次後主膳正台年

○奉元父主膳正直次ノ家督ヲ相續ス

○十八日同上神台徳公御眼差別所松平陸奥

宗政宗ニ賜ノ



○十九日 同上 補 松平十右衛門長正 外祖父松平右

也実田中彦次 大猷公 奉仕 京長次力養子

○廿三日 同上 補 台徳公 駿河国龍最寺 寺領三

百石ヲ寄附セテ 是日 先慶長九年三月十九

酒井雅楽次忠世本多上野介正純并上主計以正

就安藤帶力直次彦坂九兵衛先正是ヲ奉ル

○是月 同上 補 台徳公 松平三左衛門輝政力娘ヲ

御養女トシテ松平美作守忠宗 陸奥守ト改ム

嫁セシメ玉テ 台徳公 因テ丸茂内匠利久

姫君ノ御方ニ附屬ス時ニ米地十石ヲ利久ニ加

賜セラル

○是月 同上 補 松平内匠以知兼 台徳公ノ御側

奉任ス長祿五百俵ヲ賜ル

○是月 同上 補 酒井忠重 左衛門尉家 從五位下、叙

長門守ニ任ス松平忠丸承門勝隆 大隅守重 從

五位下ニ叙シ出羽守ニ任ス此年勝隆ニ食也三

千石ヲ加賜セラル

○是年 同上 補 松平石見守輝澄 松平三左衛門 從四

位下ニ叙ス赤右近大志忠廣 美作守 從四位下

叙シ侍從ニ任ス諏訪小太郎忠澄 因幡守頼 從五







松平十次郎常陸国土浦城采地四万石ヲ將ノ  
忠吉カ男之  
上杉高崎ノ城食邑五万石ヲ賜ル西尾丹後守忠  
永西尾隱岐守吉次カ養子實カ  
酒井河内守重忠カ三男也  
采地二万石ヲ賜ル松平大隅守重勝下総国羽后  
ノ城邑二万六千石ヲ賜ル  
家老ト成リ越後国三條ノ城ヲ守ル重勝カ跡從  
ハ後大御番頭次男淡路守重長之ヲ勤メ元知二  
ノ忠輝解州ニ登居ル後重勝又池田備中守長  
幸備中守因幡国鳥取ノ城采地五万五千石ヲ  
將メ備中国松山ノ城食邑六万五千石ヲ賜ル照  
坂淡路守元一伊豫国大洲ノ城采地五万二千

石ヲ改メ信濃国飯田ノ城食邑五万石上総国一  
宮ニ於テ五千石ヲ賜ル加藤左近大夫貞恭柏州  
米子ノ城ヲ將メ伊豫国大洲ノ城六万五千石ヲ  
賜ル戸田左門氏鉄ヲ江州膳所ノ城三万石ヲ將  
メ横州尼ヶ崎ノ城食邑五万石ヲ賜ル本多縫殿  
助康後参州西尾ノ城食邑二万石ヲ改メ江州膳  
所ノ城采地三万石ヲ賜ル松平將監成重ノ参州  
西尾ノ城領地二万石ヲ賜ル  
加増カ永井右近大  
夫直勝ニ常陸国笠間ノ城食邑三万二千石ヲ賜  
ル  
後抄崎土浦ニ於テ  
五子石ヲ加賜ル  
阿戸備中守正次上総国大



多喜ノ城食邑三方石ヲ搏ハ相州小田原ノ城采  
地五方石ヲ賜ハ龜井豊前守政矩因幡国鹿野ノ  
城ヲ改メ石見国津和野ノ城食邑四万三千石ヲ  
賜ハ領地貞教土岐山城守定義總州相馬郡采地  
一万石ヲ搏ハ棋別高槻ノ城二万石ヲ賜ハ時  
公役ヲ以テ高槻ノ城ヲ改メ築之太玉ヲ花房五  
郎左衛門益島左内長野内藏允多羅尼久八郎之  
ヲ監メ高木至水以正正次江州ノ於テ采地二  
千石ヲ加賜セリ中納言頼宣御ノ臣母藤帯刀  
直次遠別越川ノ城守ノ成リ食邑二万石ヲ領ス

加賜一是台徳公ノ釣命ニ因テ也

○是年同上補井上立計以正就半右兵衛門清秀カ男台命

因テ奉行人ノ列ス高カ棋津守御奏者番ト成ル

阿部左馬助忠吉大御番頭トナル坂部三十所廣

勝定恒五十ノ頭トナル

○是年同上補土井甚太郎正次本氏三浦母土井大炊次利勝ノ母

任字釣命ニ因テ各ヲ左兵衛改メ酒井雅乐

以忠世之ヲ執不時ニ忠世乃左孫再次ニ共ヲ

○補同上池田左門長治時乃十四歳後始テ大猷公





○是年拜謁云々

○是年補同上阿部小平次後豊後守御膳番ヲ勤メ

食禄三百俵ヲ賜ル忠秋九歳日リ

○補同上台徳公天王寺御再真リ片桐市正直

盛赤井豊後守忠養御使之ヲ奉行ス

○是年補同上京極丹俊守高知在国ノ御暇ヲ賜フ

時御馬ウ号スス外賜ル

○補同上幕下ノ諸士五年以來ノ勤番阙無リ皆

勤タル輩ヲ其勞ヲ称セラシ賜物アリ野々山新矢

平兼細等黄金ヲ賜ル

○是年同上補大久保助九平門忠益卒ス享年七十

一歳

○是年同上補富永孫六郎重師台徳公奉仕ス

○是年同上補伏見ノ城三年在番止ヲ一年代リト

成以今年大御番頭高木主水正正次阿部左馬助

忠吉之ヲ勤ム慶長十二年ヨリ去年ニ至

○補同上内藤純伊守信正城則伏見ノ城ノ城代

計上成リ米地ノ加賜セラルル

○是年同上和四戌年二

○是年同上四月



○十七日 御本社ノ御華表筑前大舟黒田長政建  
立高サ上ノ笠石マテ二丈八尺西柱ノ間二丈二尺  
柱ニ正リ三尺五寸是ハ筑前志ノ郡小金村ノ南山  
ヨリ出ル延石ト南海ヲ廻望是ヲ献々大國ヲ  
討セラレシ洪恩ヲ謝スル処ナリト云々

○寛永十三年丙子年

○三月十日

○二日 朝廷ニ於テ陣ノ座ニ節會行ル柳ノ當今  
ノ皇徳 大樹ノ家光ノ武徳四夷ハ荒<sup>カラ</sup>ニ及ヒ絶々  
ルヲ継テ廢レルヲ起シ善政頻々行ルノ序ノ本

朝ハ神國タルニ一往昔諸國ノ大社廿年ニ一度必  
不造替アリ是即チ伊弉内外皇天ノ宝基ヨリ起  
リ然レ允享建武以來 神稅次第ニ散失々禮奠懈  
ヌル莫ク歎セラレ漸ク其故ヲ温子玉ヲ既ニ今丙  
子ニ東照ノ神祠修葺シ天順ヲ来ス以テ 幕府秋  
元但馬守恭朝ニ 勤余アリテ山口祭ノ日ヨリ天  
下名工匠匠集テ日光山ノ 神殿ヲ新ニ經營セテ  
管処風雨蘇<sup>シ</sup>蓬<sup>シ</sup>ス庶民雲ノ如ク霞ノ如クニ競  
也集シ夜以<sup>テ</sup>日ニ 継テ功既ニ成ス是ニ因テ陣ノ  
座行<sup>レ</sup>御正躰ヲ新若ク 御本社ニ遷サレハキ



日時又陰陽頭賀茂後景、詔又下シ考ヘテ成  
之玉女也御、轉法輪權大納言実秀奉行職奉ハ  
警尾頭中将隆量之ヲ所決スル処、日時四月十日  
甲申亥刻未定リ是ヲ奉ス  
○同日午ノ刻 東照大権現一社ノ 奉幣使發  
遣ノ儀、因テ陣ノ座行止上御職奉ハ右、同シ官  
方ヲ兼テ豫メ官幣ノ奉テ下知スト云  
○五日、陣ノ座行止日光山藥師堂供養日時、定  
アリ上仰ハ勸修寺権中納言經廣奉行職奉ハ警尾  
頭中将隆景官方日野右女辨弘勝ナリ日時四月十

九日辰ノ刻ニ決シ之ヲ奉聞ス

四月大

○十日 天 雲 日光山ニ於テ亥ノ刻 東照大権現新  
宮ノ 神殿一日吉ノ社官御灵人社僧集會ニ日光  
ノ社司ト共ニ 御神躰ニ假殿ヨリ遷シ奉ル天海  
僧正且ツ松平右平門大夫正綱初正久板倉内膳正  
重昌秋元但馬守恭朝供奉也ト所々ノ并衛辻々  
ノ勤番ハ近國御譜代ノ大小各等 奉テ蒙ル之ヲ  
沙汰ス奉行職兼頭中将維景ノ下知ニ因テ大外記  
中原師生官務任其忠利出納中原職在等諸司ノ催



之其役之課又高九權大納言光廣廣橋權大納言  
原賢高倉權中納言永慶飛鳥井權中納言雅宣小川  
枋城參議尤大辨俊完是參之因之御正躰既上  
御鎮座人後拜殿右ノ方着座了少其裡之神饌  
ヲ供之伶備樂ヲ奏之衆僧法會ヲ行フ  
○十一日辰ノ上刻勅使以下悉ク御神前  
泰向奉幣使妙小路參議公景拜殿南ノ端北面着  
座又内藏省大藏省調進ノ官幣唐櫃ヲ入テ御神  
前ノ衛士捧入ル時公累起テ幣物ヲ納ム次日野  
資勝御劔ヲ持泰シ外陳ノ高机ノ上ニ置テ退ク次

ニ御仙洞ヨリ御奉納ノ御劔高九光廣持泰同行ニ  
置テ退ク次國母ノ御方ヨリ御奉納ノ御鏡ニ  
面出葵蒲繪梨子地ノ箱二合ニ入廣橋兼賢兩度  
持泰之之ヲ置テ退去ル次三堀川康胤拜殿ノ中央  
ニメ宣命ヲ讀果ス其間ニ御馬二匹ヲ老馬允松  
久右馬允武教是ヲ率リ元旧式ニ奉幣使一人  
ノ幣物御劔奉納ス宣命使亦兼ル若ク勅  
使公卿ノ節ハ次官一人隨逐シ勤仕セシムルト雖  
馬此度ハ嚴重給御沙汰ニ因テ斯ノ如ク宣命ノ  
詞モ亦古例ニ異ナリ嗚呼定ク神徳ノ光輝ト謂



御止宿下位

○十三日大猷公御發駕武州越谷少御旅館

○十四日下総古河少城御泊城主土井大

○十五日野州今市ノ御殿着御今日ヨリ日光

○十六日御神前法會開闢

○十七日今市ヨリ日光御殿着御哲少

東照大權現御祭禮御拜見卜大御機敷

神幸ノ次第供奉ノ行粧他異十リ祭主送二

位柳原照久初ハ大内東帶騎馬布衣四人素袍着十

人白丁拾人傘持一人ヲ携テ供奉セシム

衛ハ御講代大名ノ陪臣之ヲ勤ム幸早ハ元ノ御殿

還御御東帶着廿七至ヒ新營ノ御本社へ

詣廿七至ノ時御簾ハ堀田加賀弁正盛御裾ハ阿

部豊後弁忠秋之ヲ從テ吉良侍從等奉幣ヲ捧リ

酒井讚岐弁忠勝御釵ヲ捧納メ朝鮮ヨリ献スル所

ノ龍蹄ヲ牽セ納ム且以奥ノ院ノ御廟塔詣

七至ノ御拜殿尤ノ北ノ上西面ノ御着望アリ

東ノ上北面ノ尾州紀州水戸三御侍坐右ノ方東面

西三條前内大臣実條日野資勝着望御戒師天海



僧正證明梶井最胤法親王同女新宮慈胤法親王昆  
沙門堂門跡權僧正公海戒灌之晴會勤行アリ信倫  
三十二相人并樂ヲ奏ス元ノ御殿、還御  
○十八日職奉元少辨御光勅ヲ蒙リ拜殿於  
元法華供養ヲ執行ヲ禁裏ヨリ御布施ト綿子  
十他国絹千匹ヲ衆僧賜フ西三條前内大臣実  
條東帶出坐鷹司右大臣教平公ヲ始メ月御雲客  
台東日晴着坐大猷公ハ拜殿尤ノ方北ノ上西面  
御着坐彦根女將直孝郡山侍從忠明古河侍從利勝  
若狭侍從忠勝等ハ階下蹲踞ス吉良女將女孫ハ

花篋ヲ役ニ同侍從安冬ハ尤ノ末東ノ上北面ニ侍  
坐セシム道开師大僧正天海梶井最胤法親王同新宮  
慈胤法親王妙法院堯然法親王青蓮院尊純法親王  
昆沙門堂權僧正公海出坐セラレ被物三重宛ヲ賜  
リ前内大臣以下之ヲ役セラレ其外衆僧被物ヲ拜  
戴ス今宵ハ法服祐孝御神前ニテ護行ヲ勤行ニ  
○十九日本地藥師堂供養アリ公卿雲客出席メ  
執行セラレ萬端昨日ハ如シ鷹司殿計ハ今日出坐  
七ニ大猷公ニ渡御着座マリ申メ刻今帝ヲ御殿  
還御爲メ有テ御發駕御旅宿ノ次第前ニ同シ



惣奉行護岐守忠勝公供奉也

○廿一日 江城へ還着し玉ノ今日日沙遠近ノ

衆僧七千餘人又御神前ノ万部ノ法奉轉續

アリ柳原二位照久高刀拱津守忠房内藤存賀守忠

重松平右衛門大丈正細板倉内膳正重昌秋元但馬

守恭朝杖山修理亮正勝宮城越前守和浦等是日執

行又

○廿二日 導師天海僧正ノ御布施ノ白銀二万

兩毘沙門堂公海僧正ノ同五千兩其外僧正院家位

者以下ノ或ハ二千兩千兩五百兩三百兩二百兩是

ノ賜リ衆僧ノ青銅三万三千貫綿子千屯国絹千匹

日光惣山中ノ白銀五万兩ノ下ニ賜リ今宵法會結

願ノ云々

○廿四日 日光山銅拳表ノ内舞臺ヲ構ヘ四聖ノ

様樂アリ御内跡方公卿殿上人僧侶棧敷ニ臨テ見

物スト云々是諸社ノ例ニ擬セラル者故昨日六時

棧敷ノ構ヲ庄里ノ丸玉門秋元但馬守并奉行教業

珍味ヲ尽シ御門跡方公卿雲客僧侶ヲ饗應ス

○寛永十四丁丑年

江城紅葉山 神廟御造營畧記



三月小

○十七日 大猷公今度武城ノ殿閣改メ造ラセ  
玉ノつキニハ異朝ハ宗廟ノ先トスルノ例ヲ以テ  
先ニ郭内西紅葉山ノ勝地ニ東照大権現ノ廟  
基ヲ築カル小笠原右近大夫忠貞ノ營造タリ時ニ  
御廟南向タルニシト郡議決断メ台藪ニ遷セ  
所東南其ノ南ナラシ然モ彼ノ神號ニ擬メ東面タ  
ルニシ但シ 神意ニ隨ヘキ旨 釣命ナル工ニ御  
作事奉行佐久間將監実勝ヲ不権僧正忠尊ニ告テ  
今日実勝斎戒ノ増正寺 安国殿ノ案前ニ於テ

台閣ス請テ日東一南二ト然メ一ヲ得タリ再ヒ至  
リ三ニ至テ皆然ナリ更ニ東南ノ字ヲ片紙ニ書シ  
括テ二丸ト成メ探リ開ケハ又東ノ字ヲ得ル是ニ  
於テ 台慮ノ能 神意ニ適當シ玉ノ案ヲ信セヌ  
ト云者ハ源頼朝卿閣ヲ取テ地ニ近クテ鶴ヶ岡  
ノ神祠ヲ小林岨ニ遷シ祭ルニ其揆同ク其徳厚キ  
者歟

四月大

○朔日 紅葉山ノ 神廟地形幸始メ黎明ヨリ  
監視下吏群参シ人夫雲ノ如ク霧ノ如ク踵ヲ継テ



競ニ奪ル所、鶴一翼志下リ居ケルヲ惣奉行ホシ  
原思負ル元臣怪ニテ之ヲ捕ハ献セニトスルニ  
大村ノ日頃此處、馴養セラルル處ノ鶴ニハ是ヲ追  
返シ早又滑ク有テ亦雙鶴相率ラ空ヨリ舞下リ其  
所ニ憩フ玄裳縞衣羽儀端正ニメ和氣舒暢タリ觀  
ル者拱向ニ聞者美奇トス既ニメ東ニ飛去又鶴ハ  
羽族ノ虛長神徳ヲ騏驎ナリ昔ニ黃帝汎神ヲ會メ  
鶴其右ニ舞フ故ニ曰聲天ニ聞謂ツベニ祥瑞ナリ  
ト加之漢ノ宣帝ハ世祖ノ廟ヲ祀ニ鶴其庭ニ集ル  
帝岱宗ニ祭望スルニ来テ壇上ニ朝ル是其孝敬ノ

然ニムル所和漢其揆一ナリ此事 上聽ニ達ス蓋  
シ 大樹往日不豫ノ色アリテ今漸ノ平安ニ就玉  
ノ上 姬若御誕辰喻月當シノ唐帝初産ノ日鶴毛  
舞スルト并セ舞スニシ実ニ恭平ノ瑞應天地ト同  
リ疆リナカルニ  
○五日 卯亥 兼テ撰定ノ廟壇繩ヲ督メ右土ヲ祭リ  
玉ヒ鶴ノ祥瑞ヲ賀メ老臣朕近ノ諸臣ニ飲食ヲ賜  
リ舞樂ヲ養シ早テ大僧正天海ヲ始ニ兼服ヲ纏頭  
スル者着テニ至ル儒臣羅山子道春淳屠沢庵宗彭  
頌ヲ賦ニ折節恭齊ノ鳥丸光廣郷和歌ヲ詠ス



高麗の降し... 常：凡尺セル大橋長左平門貞政入道式部卿法印  
龍慶モ倭歌ヲ詠ス

草のまは... 齡を君が代... 事にあし... なるそ...

寛永十八辛巳年

○諸侯 命シ日光山 東照大権現ノ御宝塔ヲ

建ラル 松平伊豆并信濃阿部豊後守忠秋同  
對馬并重次代々彼山：至テ並換ス

正保二乙酉年

十一月 大

○九日 後光明院 勅アリテ 東照大権現ノ

宮號ヲ贈リ玉テ 宣命ヲ令出川権大納言經季之

ヲ携ヘ東武ニ下向シ今日 宮内ニ於テ 御頂戴

アリ

○十七日 丑 日光山 御神前ニ於テ 宮號ノ



宣帝ヲ經季之ヲ讀ト云

慶安三庚寅年

六月七

○八日<sup>庚寅</sup> 日光山相輪塔經堂成就ニ供養行ル  
御名代井伊敦貞佐直澄ヲ以テ雄劔龍蹄ヲ納玉フ  
此塔ハ比叡山寶幢院ニ在ルヲ模写セラル、所也

寛文四甲辰年

六月

○十七日 補 日光山 東照宮御尊體藥王菩薩  
御長<sup>ナ</sup>一尺一寸七分<sup>ナ</sup>臺座<sup>ノ</sup>指渡<sup>シ</sup>ヨリ後光上端マテ  
惣高<sup>ハ</sup>廿三尺二寸<sup>ナ</sup>

同所御位牌 惣高<sup>ハ</sup>廿二尺三寸七分<sup>ナ</sup>板幅<sup>ハ</sup>四寸<sup>ナ</sup>臺座  
長<sup>ハ</sup>一尺三分<sup>ナ</sup>每地表ニ御紋一ツ在リ  
此御位牌ノ表ノ御名號裏ノ御銘文誌サセ玉フ  
下左ノ如シ

元和二年丙辰四月十七日 大相四源家康公

義子<sup>ト</sup>駿府<sup>ニ</sup>棄<sup>テ</sup>幕<sup>ニ</sup>久能山<sup>ニ</sup>明年四月孝子 夫忠公

因<sup>テ</sup>從<sup>テ</sup>遺<sup>テ</sup>棄<sup>テ</sup>改葬<sup>ス</sup>野州日光山奥院石窟而建<sup>ス</sup>宝塔

於墳上越寛永十八年辛巳孝孫 家光公以謂

木朽恐年久而朽頽故<sup>テ</sup>石<sup>ニ</sup>改<sup>メ</sup>作<sup>ス</sup>宝塔母置<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>藥

王菩薩木像寛文四年甲辰孝曾孫 家細公再

改<sup>メ</sup>木像新鑄<sup>ス</sup>金銅以記<sup>ス</sup>東照宮神號母<sup>ニ</sup>于<sup>テ</sup>塔内



聖之不朽則東照神威亦高干後昆乎  
寬之四年甲辰六月十七日  
一品法親王尊敬誌

○廿日

補日光山大猷公御尊體釋迦牟尼佛一尺一寸  
寸七分臺座ヨリ後光上端ヲテ惣高サ三尺同所  
二寸臺座ノ指渡シ一尺八寸但シ八角  
御位牌惣高サ二尺三寸九分板ノ一リ幅四寸  
此御位牌ノ表ノ御名號裏ノ御銘之誌サレ玉フ  
ノ左ノ如シ

贈大相國家光公追慕 東照大神歸依台宗平

生告侍臣曰吾没後當送屍於日光山藏于東  
照神祠之側矣慶安四年辛卯于薨 家細公依  
遣旨葬之靈窟乃建石宝塔安置於釋迦銅像今  
歲亦以金銅新鑄 大猷院殿位牌安置於塔内也  
寧欲貽後代而已

寬文四年甲辰六月廿日

一品法親王尊敬誌

○東照宮御鎮座所々

日光山下野田

久能山駿河國神領三千石

別當 寒沼院



喜多院

武藏國仙波  
御神領五百石

鳳来寺

參河國設樂  
御神領五百四十石  
余葉師堂八外也

瀧山寺

參河國  
御神領六百拾石

龍華院

遠江國  
御神領百石

長樂寺

上野國世良田  
御神領百石

滋賀院

近江國坂本  
御神領千二百五十石

龍山寺

尾張國名護屋  
御神領千石

天台宗  
別當

觀心院

雲光院

肥前國和哥山  
御神領千石

天台宗  
別當

真如院

吉祥院

常陸國水戸  
御神領千石

天台宗  
別當

震松院

神護寺

加賀國千石

利光院

備前國山

正壽院

陸奥國會澤

仙岳寺

陸奥國仙臺  
御神領千石

東照宮以其



東照宮ハ其仁天ノ如ク其智神ノ如シ武ヨク乱ニ  
戡千文ヨリ治ヲ致ナシメ徳ヲ積ニ功ヲ累子堅ヲ  
破ヲ銳ヲ摧テ戦トテ勝スト云テ毎ク威ヌルトメ  
服セスト云テ十ク遂ニ一統ノ業ヲ成シ玉フ其始  
龍ノ如クニ冬冽ニ真リ雷ノ如クニ甲陽ヲ撃ツ長湫  
ノ義戦武ヲ一時ニ揚ケ開原ノ大捷威ヲ四海ニ耀  
ス三韓ノ和好ヲ許メ聘使ニハヒテ東四夷ノ方貢  
ヲ懐テ其貨賫十ニヒ臻リ法ヲ定メ度ヲ制メ謀ヲ  
未齋ニ貽シ玉フ是ニ於テ仁君明主世々大成訓  
ヲ守テヤ重熙累洽永ク銘レテ慶ヲ承玉ヒ徳載萬

々歳ノ廣業ヲ開給テ事維有神徳也

古今遺事之跡數在才冊  
東宮神徳之記  
神名之記  
神名之記







以在源華戰記數十名家  
之業亦汗牛充棟而已  
抑尚不究其原委蓋非  
經數十年之勞則亦未可  
測其繁略矣雖然諸家所

紀詳略異趣不捨殊意或  
失之傳訛或失之考索大  
都未易信據焉故雖老成  
罕尚或惑焉况童蒙未學  
焉故舊遺臆焉徐嗜編年



之載藉其年於茂蔡校異  
者亦及右年終志孤陋專  
志撰集每得有疑義異同  
周爰徵詢贊同討論始五  
十餘年積而成編定為百

有五十卷以貽子孫冀使  
孤孝免面牆之謂云爾

如元年甲申孟秋

雪汀搦口棠芳記

